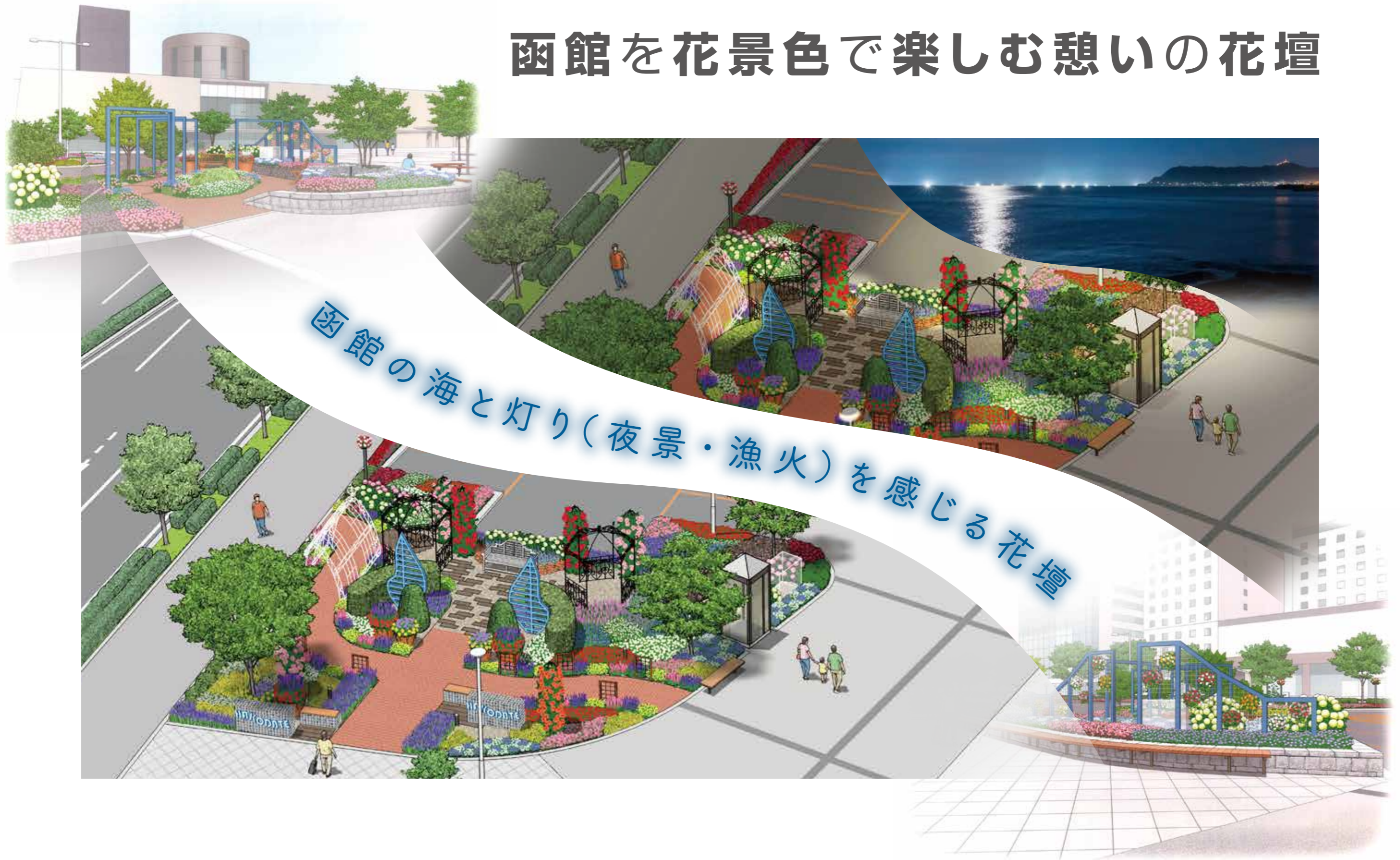


函館駅前・西部地区花いっぱい業務
プロポーザル提案書【抜粋】

受託候補者

株式会社 桔梗造園

函館を花景色で楽しむ憩いの花壇

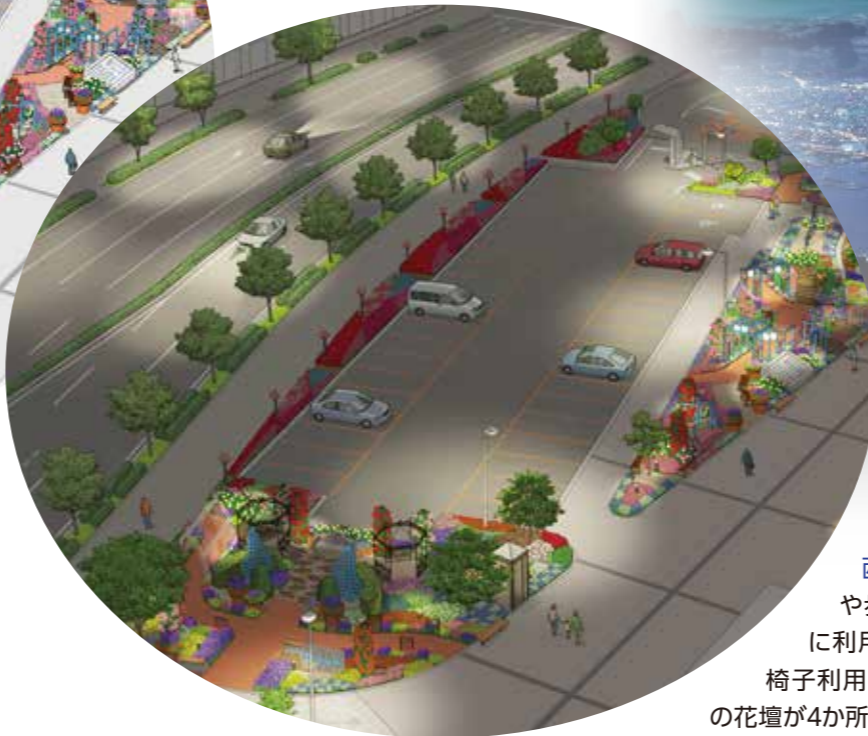


函館の海と灯り(夜景・漁火)を感じる花壇

函館を花景色で楽しむ

憩いの花壇

函館の海と灯り(夜景・漁火)を感じる花壇



2003年より
現駅舎になる

2024年夏現在
変化し続ける函館駅前花壇の様子



函館駅前及び大門地区そして西部地区の全体を通して、街に魅力的な花の修景を行い、多くの市民や観光客が何度も訪れてくれる、足を運んでくれるような、花に彩られた美しく、楽しい、潤いを感じられる花の街づくりを提案します。

函館駅前から朝市そしてレンガ倉庫群から八幡坂までの道のりの街路灯フラワーバスケット装飾は周りの景色が、より華やかになるよう函館駅前花壇の花色とは少し違った明るい花色を配植します。開港通宿根草花壇は年々ボリュームが出てきておりますが、春先は宿根草の開花がなくやや淋しい状況を呈します。



八幡坂通フラワーバスケット

八幡坂通りのフラワーバスケットは木陰の多い場所なので明度が高い花苗と彩度の高い花苗を組み合わせて、より華やかなフラワーバスケットにするようにする。

この花壇は函館駅前花壇との連続性が大事な場所であり、春の宿根草の花が咲くまでの間は一年草の駅前花壇に使用する花と同じような花苗を植込み、より一層の華やかさが増すような花壇づくりの提案をいたします。そうしてまち並みの景観や魅力をより向上させた花と緑の「ガーデンシティ函館」を目指します。



ベイエリアフラワーバスケットイメージ
ここはレンガ倉庫の壁と岸壁係留のイカ釣り船のバックで函館らしい撮影スポットになっております

函館は特殊な地形で太平洋側と日本海側から吹いてくる強い潮風ありますので、使用する花苗は10年以上の経験から選定した潮風に耐える強い種類を選択して植栽します。

同じ花の種類でも色合いを変えて、雰囲気に変化がありながらも統一感を作り出し、周りの建築物の色や日照条件などを十分に考慮した上で、その場に調和する色合いの植栽を行い、歩行者が楽しみながら観賞できる装飾にします。

函館市はブランド総合研究所(東京)により2024年10月に発表された全国1000の市町村の**魅力度ランキング**で5年ぶりに1位になったことから今後ますます函館が目ざされ、観光で訪れる方が多くなると考えられます。

函館を訪れる方々の期待に応えられるようまた函館らしさを伝えられるよう海や夜景・灯り(漁火)をイメージできるような魅力的な花壇・草花の植栽となるようにします。新型コロナウイルスも5類となり人々の往来、交流も多くなり、国内はもとより海外からの観光客も多く来函してきています。

若松ふ頭や港町へのクルーズ客船入港も2024年は約60隻あり、特に若松ふ頭の入港の際は降りてすぐ朝市・函館駅前・大門地区への立ち寄り賑わいのなか、花や緑のおもてなしで感動して頂くことを目指します。

観光市場である函館朝市にもフラワーバスケット装飾をして、歩く目線でも華やかな通りとなり、より一層の花の魅力で印象付けします。駅からのコンテナ植栽も花色が、より映えるグレーの落ち着いた色合いのコンテナを使用し、列植して駅から大門地区の線誘導となるよう設置いたします。

西部地区ベイエリア周辺は道路や歩道も整備され、多くの歩行者に利用されることから、歩道には車椅子利用の方も間近で観賞できる大型の花壇が4か所設置され、宿根草が植えられております。宿根草も大きく成長して見ごたえのあるものもありますが、抜けているものもありますので、抜けている箇所には補植を行います。

春の大型連休には花のない淋しい状態の花壇となります。そこで新たに秋植え球根を植栽し、早春からは球根が、晩春からは宿根草が楽しめるような花壇とします。

(初年度については春初めに一年草を植えてカバーします。)



開港通宿根草花壇とフラワーバスケットのイメージ
(6月中旬頃から宿根草の開花)

函館前から大門地区の見通しが良くなり、遠くの商店街まで目に入り各店舗への立ち入りも容易になりました。このため以前よりも購買意欲や飲食等が増していることにつながっていると思います。

駅舎から大門地区に向かう中、函館駅前花壇通路には駅舎を背にして通路左側の大型ガーデンコンテナの列植置き修景を行いさらに大門地区への視線誘導に繋がるような、華やかな植栽とします。商店街の方で協力いただける方にはご了承の上、同じような植栽をした小型コンテナを置いていただき、より函館駅前花壇との花のつながりで統一を広げていきます。



薄グレー色

1 「ガーデンシティ函館」のコンセプト

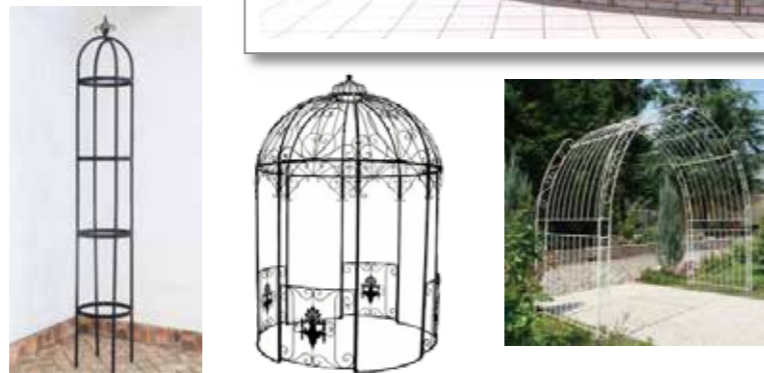
「ガーデンシティ函館」駅前・大門地区

駅前・大門地区を訪れる市民や観光客の方々に函館をイメージする海や夜景が感じられるような色合いの花と灯りのある駅前花壇を作ります。花壇は地区の景観に調和するような花選びを行い、そこから西部地区へ同様な花種・花色を繋げ八幡坂までの視線誘導になるように花装飾を提案いたします。

駅前地区は生活・交通・経済のクロスエリアとなっており、ビジネスで訪れる方、買い物で訪れる方、観光で訪れる方と様々です。この交流空間に作られる駅前花壇が、待ち合わせの場となり、休憩の場、花を楽しむ憩い場として多世代の方に利用され長時間の滞在でも花に癒されるような色合いの居心地の良い花壇とします。

ツルバラアーチやオベリスクの根元に腐食が見られることから全て取り換え新たな装飾に変えて設置を考えます。以前②花壇に設置していたガゼボは③花壇に移設しさらに1基増やして、より楽しめて写真スポットになるようにします。③花壇にはガゼボのほかアイアンゲートも設置して既存のツルバラの誘引でバラのトンネルを作ります。

そのほかHAKODATEのじゃかご看板も2か所設置ベンチも新たに2か所設置によりベンチの周りにはコンテナ植栽もして写真を撮るときには花に囲まれた写真スポットになるようにします。また以前②の花壇にありましたロニセラはガゼボ根元に植込み直せませす。ガゼボの中には①花壇で使用したベンチも補修し使用してガゼボの中で休息できるようにします。②花壇には四季咲きバラも新規植込みをして更なるバラの花の観賞が楽しめるようにします。



デザイン性

2

春から秋にかけて絶え間なくボリュームを持った花を彩るデザイン

4月中旬から春の花苗の植栽や既存の宿根草の移植を行い、春の大型連休までには函館駅前花壇・西部地区。フラワーバスケット装飾の植込みを完成させて、市民はもとより函館を訪れる方々に新たな花の装飾を楽しんで、くつろいでもらえるような場となるようにします。

宿根草については年々ボリュームが増し、特に函館駅前花壇・開港通花壇のアジサイアナベルの大きさや広がりには多くの方が写真に収めている姿をよく見かけます。益々の広がり成長できるように土壌改良や維持管理を充実させて多くの開花で楽しめるようにします。2年目からは、花壇にも春咲き球根と一年草で、よりボリュームアップした華やかな花壇にします。

函館駅前の花壇で使用するコンテナの一部には一年目から一年草だけでなくチューリップの植栽も行い春らしさを感じられるコンテナ植栽とします。以前に使用した春咲球根も掘り取り鉢に植込み養生しているものもありますので発芽確認の上花壇内の空きスペースに一年目は鉢ごと埋め込みして装飾します。

春咲球根は6月中旬に掘り起こし次年度にも開花できる充実した球根を振り分け保存し、秋に花壇の空きスペースに植え、破棄することなく利用し、より華やかな花壇とします。6月中旬から下旬にかけて函館駅前花壇及びフラワーバスケットは、夏花苗に切り替えて植栽します。6月下旬では夏花のボリュームにかけますが、ラベンダーとバラが満開を迎える季節になり、この時期に函館駅前を訪れる方々には北海道らしい景色を見ることができ楽しむことができます。こうして植え替えの時期でも花の開花が絶えることの無い花壇とします。



「ガーデンシティ函館」西部地区

函館西部地区ではそこに住み、暮らしている人たちが自主的に、歴史と景観に配慮したデザイン性の高い美しい街づくりに取り組んでおり観光で訪れた人たちがまた再び訪れたいところですので、それぞれの場所に合う花色のフラワーバスケットの装飾を行います。

開港通宿根草花壇4カ所は落ち着いた色合いの花の色や葉色を植込み一年草（春先）も派手さはなく明るいものとし、駅前花壇で使用する花種・花色を取り入れ統一感のある花壇になるようにします。特に西部地区フラワーバスケットの花の色には函館市章にもある空と海の青色、歴史と市民意欲の赤、未来への飛躍の白色を取り入れた配植で植込みします。



3

鮮やかな彩りの花による、華やかなデザイン

函館駅前花壇については函館の海の青色と灯りをイメージする黄色や白色を花壇に多く取り入れ、函館らしさを感じられる色合いの植栽とします。

①の花壇内に新たな設置の木製ゲートや木製フェンスは海や空のイメージの青色とします。また狭い花壇スペースですと木製ゲートを設置することにより奥行きが出ることと中心にも小さな花壇を作り散歩できるような花壇にします。計画図に図示していないのですが既存のギボウシなどは株分けで増やせるものは木製ゲート柱の足元や樹木下の根元付近の空きスペースに植込みをして使用できる植物は可能な限り植栽します。

②花壇には新たに木製ゲートを2基、ラウンドバスケット吊り下げ木製組み合わせ柱材を2基設置して灯りのイメージする演出をし、函館らしさも感じてもらえるような装飾にします。

木製フェンスや木製ゲートには壁掛けタイプのハンギングバスケットや以前使用した大型バスケットを使用し灯りのイメージとなるようにします。駅舎から大門地区に向かう中、立体的な花装飾とします。

④の花壇に設定されているフラワーバスケットは車窓から見たり、歩行しながら見るところですので、できるだけ華やかさのあるもので、花のあるという赤色を植え込んだフラワーバスケットとします。

西部地区へつながるフラワーバスケットについては、目線の上の高さの空間に飾ることになりますので華やかな色合いの赤系やピンク系を多く植込み、場所ごとのフラワーバスケットの路線の花種の同種・同色も入れながら少しずつ変化させたつながりのあるフラワーバスケットにして配植します。

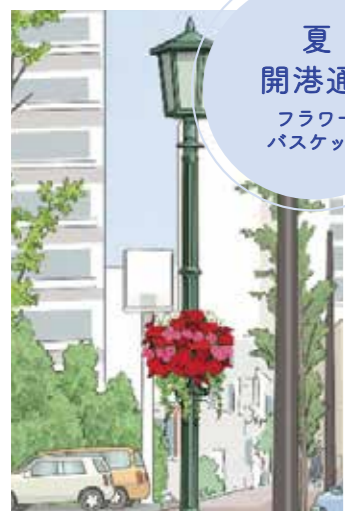
4 毎年変化していく花壇デザイン

各花壇は3年間花種・花色ともに変化させて単調にならないようにそしてテーマに添った色合いを植栽して同じ花色であっても花種や花の咲き方や花の形の違うものを選び毎年函館駅前やフラワーバスケットやコンテナ植栽の写真を写しても、以前と同じ位置での同じものにはならないように変化させます。

花壇に使用する秋植え球根春咲の球根は新規に植え込むものは計画図に示していますが、前年の球根については球根を掘り取り後、選別し、翌年開花見込みのものは保存して、空いている場所に植え込みますので数量の確定ができないため、発芽可能な球根のみ空きスペースに植え込みます。計画図では空きスペースが広いように見えても年々華やかになることとします。



フラワーバスケットの花苗は毎年、函館駅前花壇のフラワーバスケットに使用する花苗のメインの花を使用します。ただ花色は路線ごとに変えて、統一感がありながらも花色や葉色を変え場所ごとに色彩を変化させたフラワーバスケットにします。



令和7年夏のフラワーバスケットの例ですが、使用する花苗の種類は同じでも花色や葉色の变化で違う雰囲気を楽しめるようにします。



デザイン性II

2025 令和7年



2026 令和8年



2027 令和9年



①②③⑤の花壇には今回新たに増やした木製ベンチと共に、以前用いたベンチでまだ使用可能なものも設置します。ここが写真スポットとなるように、ベンチ脇にはコンテナを設置して花が写りこむことや、後方には花壇の花と一緒に写り込むような植栽とします。また、特に観光で来られた方々には函館駅名やHAKODATEなど、函館の文字も入るような位置にベンチを設置し、思い出の1枚に「函館」を印象付けるようにします。

木材フェンス風の垣根は再利用とします。また毎年コンテナやフラワーバスケットに使用し廃棄処分していたアイビーを撤去時

5 夜の花壇を明るく彩る花のデザイン

花壇内のライトアップは前回使用したポールライトを全て使用します。更に新しく、②の花壇内には新たに木製波形ゲートに直径45cm、直径30cmのLEDクリスタルボールを1か所に3個設置して花壇内の通路の灯り取りとします。



明るさがある程度あるもので、かつ電気料も抑えたものにします。通路歩行に足元を照らすこととなります。また今回は花壇内には白花や淡色の花色の植栽も多く、夕方、日が落ちても今までよりも長時間花を楽しむことができます。

花壇内のライトアップについては今までのポールライトを使用し幻想的な花の観賞が日中とはまた違う印象を楽しめます。



その他について

ライトアップに必要な電源は花壇に設置している電源から確保し、使用料は業務委託費に含めて計上とします。支払いについては事業施工期間内使用分受託者が支払うこととします。

今回は花壇内に宿根草の風に揺れるグラス類や花なども取り入れて、花壇で癒されてもらいベンチも新たに設置して多くの方々の憩いの場となるような花壇とします。

①花壇の宿根草のワイルドストロベリーはグランドカバー的にもなることと、メンテナンスしていると実際に食している方も目にしたので花壇内で移植してレイアウトは変わりますが、既存とします。



に当社の園芸店舗ハウス内で保存し、翌年植栽をして木材フェンスやガゼボに苗を絡ませて年々成長させ、より緑の壁になるようにし、花と緑でいっぱいになるような花壇を目指します。

③花壇で使用した貴族ベンチについては再利用して写真スポットになるようにベンチ周りには花が映えるような植栽をします。



市民へのガーデニングの普及・啓発、市民や観光客への対応

実現性 III

既存の花壇・コンテナ・既存樹木・宿根草について

コロナウイルス感染症も5類となりましたので、市民の方々のガーデニング普及につながる研修としての「ガーデニング講座」開催案内を幅広く報道機関等に依頼をします。夏花壇植栽の時に「ガーデニング講座」を受講していただき、講座後に実際に作業に参加して頂きます。

広く市民の皆さんと協働で函館駅前花壇を完成させます。市民の皆さんが花と緑に触れることで、より花への興味や知識を持って頂くことと思います。こうしたことにより函館市が花のある街として更に広がり進展していくことと考えます。私たちは、市民の皆さんと一緒に函館市の花のある街づくりの推進に貢献できるように努めます。

市民参加エリアとして④の花壇の植栽をボランティアによる植栽場所エリアとし、これまでの経験を活かし呼びかけを行い花壇づくりを進めていきます。呼びかけには報道機関への依頼とSNSの呼びかけとし、より広くボランティア人員を増やし函館駅前花壇の植栽やメンテナンス等に参加していただき、函館駅前周辺の美化にもつながるように努めます。

花壇やコンテナに使用している花苗については問い合わせなどに対応するため、作業にあたる者に事前に教育を行い、速やかな対応で広く市民や観光客に満足いただけるよう努めます。また観光客からは花についてのことばかりではなく市電の乗降場所やホテルの場所、函館朝市の場所などの問いも多いことから、函館駅前周辺や元町付近の地理的な習得にも努めます。



ガーデニング講座状況



ボランティア活動状況

花の名前については、函館駅前花壇においては説明版を設置し、各花壇の花の種と名前を、日本語・英語・韓国語・中国語・ロシア語での説明表示をし、市民の方や観光客の方に広く植物に興味を持ち理解をしていただくようにします。以前に行ったQRコード（二次元バーコード）での花の説明は今後も行います。更に花壇の季節ごとの見ごろの時には、SNSやホームページなどで知らせ、函館駅前地区と西部地区へ多くの人に足を運んでいただけるようにします。

高揚市姉妹都市提携記念樹は現状位置そのまま、撮影スポットとなるような場所として、またベンチやコンテナなどの配置でより華やかさのある場所として、広く市民はもとより観光客の方にも友好都市函館を知っていただくようにします。

現在函館市は海外の6つの都市と姉妹都市・友好交流都市提携を結び、交流を深めています。この場が国際化に少しでも役に立つような華やかな場になるようにします。

③花壇ではこのようなじゃかご看板の後ろにベンチがあり写真スポット場所ではコンテナや花に囲まれて撮影できるようにします。他の花壇でも写真スポットとなる場所では花に囲まれての画像が取れるようなコンテナ設置や花の植栽とします。

既存の花壇には使用できるコンテナ等は多く使用し、花壇のポイントになるような設置や通路の導きになるような配置とし、立体的な歩行目線に映る植栽となるようにします。

市民参加エリア④花壇と⑤⑥花壇の駐車利用の通路の狭い場所は常に危険との隣り合わせとなるので、今回からは宿根草のローメンテナンスの植栽とします。



現状の花壇内の樹木については、当社の街路樹剪定士による樹木生理を踏まえた適切な剪定をこれまでも施してきたことにより、夏場の日陰も確保できるまでに成長してきました。暑い日には花壇を利用する方々の避暑エリアになってきており、引き続き現状を保てるような、維持管理に努めます。

①②③⑤花壇内すべてにベンチを設置しできるだけ日陰で利用できる場所にします。

今までも夏場の日陰のベンチの利用度が高くなっています。

これまでの業務で使用した照明については、使用できるものすべてを再利用します。他にもフラワーバスケット・土留めエルフェやレンガ通路もまだ使用できるのでそのまま利用することとします。ベンチなども使用可能なものは全て使うこととし、廃棄を少なく、少し手を加えて長きに利用することで資源の大切さを考慮する取り組みを積極的に行います。



花壇内に植えてあります宿根草は年々成長し続けて、そのまま使用して更なるボリュームで、より函館駅前を利用する方々に宿根草の成長を楽しんでいただけます。

また、株間が蜜になるほどの成長株は、株分けをして移植をし、空いているスペースへの植栽を行います。

何年もの年数経過の既存の植物は特に移植・株分けを行います。新たに新しい植物を植えて花壇を花でいっぱいにするのではなく既存の宿根草を増やして花壇を花いっぱいにしていきます。



当社は SDGs に積極的に取り組みます

日常及び緊急時の 維持管理体制について

当社では花の健全な生育に十分な注意を払い、4月から10月までの長期間、花壇及びフラワーバスケットの花が美しく観賞でき、楽しめるような維持管理作業を進めます。

花の管理には豊富な経験者や技術者が男女の隔てなく、年齢も制限せず健康で作業不安のない方に就いていただきます。
(当社では15年以上花の業務に携わるスタッフが多数在籍しております。)

フラワーバスケットの作成時には、(一社)日本ハンギングバスケットマスター2名の保持者がいる当社の得意分野としての強みでありますので、長年の経験と実績を活かし作業いたします。
花苗の選定や日常管理についても的確に判断し、常に形の乱れることなく華やかさを維持いたします。

花壇の施工管理の際には、造園施工管理技士、造園技能士、街路樹剪定士、農業指導士各資格保持者のもとに作業を進め、経験の浅い作業員には技術指導や研修を事前に行い施工いたします。

花壇及びフラワーバスケットの維持管理作業は天候に左右され、厳しい局面にしっかり対応しなければいけない場合がありますが、特に台風時にはそれが顕著で、台風前には一年草や宿根草の生育への支障を最小限にする養生を行い、小さなコンテナは撤収作業を進め対処します。

フラワーバスケットについては台風進路をしっかりと見極め、早めの一時撤去等を行います。撤去時には当社特注機材にて作業もスムーズに今までも行ってきましたが、短時間での移動が可能になるようにしており撤去も設置も速やかに行います。

実現性Ⅳ

維持管理期間



その他

花壇やフラワーバスケットの維持管理業務期間中は、緊急時連絡体制表を作成するとともに気象条件を十分に把握し、協議の上、特に台風・強風(特に日本海側からの横断経路時)には花壇作工物の撤去や支柱等で支え、安全対策を講じ、危険回避を行います。

フラワーバスケットについては早急に撤去作業し、当社屋内施設に保管します。

台風・強風の通過後は被害状況を速やかに点検・把握し、発注者と協議の上必要事項確認後します。安全確認後に復旧作業を行います。緊急を要する場合は電話連絡等で双方確認・了承の上対処を速やかに行い、事後書類にて報告をいたします。

④花壇の日常管理やボランティア活動時には、市民や観光客等への安全対策として、作業範囲をカラーコーンなどで囲い、作業看板を設置し、花壇広場を利用する方への注意表示と安全確保に努めます。今までは駐車スペースと花壇との距離がなく作業する方と駐車利用の車の入庫の時に危険なことも考えられたので今回は駐車場側約40cmの幅に宿根草を植込みしメンテナンスを極力少なくすることで安全を確保することとします。



函館駅前周辺施設等を利用される方や観光で市内を回られる方へ今回の業務に関するアンケート調査を行い、常により広く満足していただけるような花壇やフラワーバスケットの参考になるよう、自己評価としての資料作成を行います。
花壇作業に当たり賠償責任保険やボランティア作業ではボランティア保険等に加入し、万が一に備えます。

近年夏場の高温が数日続くことが多くなってきましたので、熱中症対策グッズの携帯や休憩時間を多めにとること、またこまめに水分補給をするなど健康管理に配慮し、安全作業を心がけます。



当社特注機材

1機材当たり8個のフラワーバスケットが吊り下げ能で現在20基保持しています。
4t箱車にて1度に5基の運搬をしています。台風接近時は速やかに車庫やハウス内に養生します。



植物の選定にはなるべくローメンテナンスのものをを選び、維持管理をローコストに抑えることにします。
草花が春から秋まで長期間美しく咲き続ける状態を維持するために、常に美観の損なうことの無いよう週1回の花がら摘み、除草、清掃を行います。特に除草については繁茂する前に早めに処理しきれいな景観維持に努めます。

散水については週2~3回程度を予定とし、降雨の状態を判断して適宜行います。

病虫害については草花を植え込む時に事前に殺虫剤を土壌に混入して、防除策を講じますが、成長過程でどうしても発生した場合は、第三者へ配慮のため早朝に薬剤散布をします。

土壌改良・施肥については、初年度春に現況土の上層約5cmを撤去して、新たに撤去部分の黒土を搬入して、腐葉土・たい肥さらに緩効性肥料(元肥)を混合攪拌し、2か月に1回の緩効性肥料の追肥も行います。

フラワーバスケットは1か月1回の追肥となります。



私たちコンソーシアムはSDGsの取り組みを積極的に行います。

1~17の持続可能な開発目標の
できる限りの活動をし続けていきます。

目標4 教育

ガーデニング講座を実施し、生涯学習の機会を促進していきます。

目標5 ジェンダー平等

女性の能力が発揮でき活躍の場にし、性差別のない社会にします。

目標7 陸上資源

LEDライトを設置し電気量の削減をします。

目標8 働きがいも経済成長も

高齢でも体力もあり社会に貢献したい、働きたい意欲のある方の働き場の提供とします。

目標12 作る責任使う責任

花苗の入ってきたプラスチックトレーは生産者へ返し再利用としてもらいます。

目標12 作る責任使う責任

休憩で購入の飲料等は必ずマイかご・マイバッグ持参します。